

書籍を核に多様な製品の在庫管理、輸送、流通加工等を手がける3PLを展開。1万5,000坪超の営業倉庫で物流インフラを支える

出版産業は倉庫業、輸送業のほか多様なサービスで出版業界の流通を支え、出版物流を基幹事業に食品、飲料品、アパレル品等さまざまな製品の在庫管理や輸送、流通加工を行っている。昨年は増え続ける物流ニーズに応えるため3,000坪超の倉庫を新たに開設した。社員の働きやすさを重視しながら数々の施策や新事業への参入を行い、順調に成長を続けている。



代表取締役社長 渡邊 留雄氏(右)
専務取締役 渡邊 一矢氏(左)

●代表者	代表取締役社長 渡邊 留雄
●創業	昭和59年4月
●設立	平成2年7月
●資本金	5,000万円
●従業員数	300名
●事業内容	出版物流事業、流通加工、各種梱包、営業倉庫、EC物流事業、運輸事業(トラック・バス事業含む)、飲食事業
●所在地	〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富991-7 TEL 049-259-3000 FAX 049-259-3010
●URL	http://www.syuppansangyo.co.jp/

三芳町に本社を置く株式会社出版産業は、三芳町、所沢市、新座市、朝霞市に物流センター等8事業所を持ち、倉庫総面積1万5,000坪超を誇る総合物流企业である。その名の通り「出版物流事業」を基軸に「EC物流事業」を展開、顧客のニーズに応じて物流をマネジメントする3PL(サードパーティロジスティクス)も手がける。さらに国内輸送のみならず、顧客の要望に応じて海外商品の輸出入を請け負う「国際物流事業」も行っている。

出版物流事業で取り扱うのは主に書籍で、顧客となる出版社から依頼を受け、保管を委託されている自社倉庫から本をピックアップして埼玉や東京の取次(書籍や雑誌の卸)店に納品。取次からの返本受け入れや在庫管理、返品された書籍の側面(天・地・小口)を研磨して新たなカバーに付け替えてリメイクする“改装”業務も行い、顧客の物流事業をトータルで支援する。

「40社近くの出版社さまから依頼を受けて在庫をお預かりし、出荷、返品、改装、取次に届けるまでの業務をワンストップで行っています」(渡邊留雄社長)

事業承継ができず会社の存続に苦慮する同業他社が多いなか、同社は社長の子息・渡邊一矢専務が右

腕となって社長と2人で舵を取る。そして未来を見据えて次々と布石を打ち、会社を大きく前進させている。

→ 倉庫数を増やし、業容を拡大

「脱サラしてトラック1台で運送の仕事を始めた時、ある出版社の子会社の方から声をかけてもらい本の輸送と改装の仕事をスタートさせました」

昭和59(1984)年同社は創業し、第一歩を踏み出す。渡邊社長は倉庫や機械を借り、必死に書籍改装のノウハウを磨き、どんな仕事であっても断らず丁寧に顧客の要望に応えていった。その評判を聞きつけ、1社また1社と依頼する出版社が増え、また自らも出版社に営業をかけて顧客数を増やしていく。さらに機を見るに敏な動きで、出版市場の拡大に合わせて倉庫数を増やし、会社を順調に成長させていった。

平成18(2006)年にネット通販の需要を受け「EC物流事業」を立ち上げる。出版物以外のアパレル商品や食品等の倉庫業務、流通加工業務等を請け負い、発注、検品、発送、在庫管理、決済代行などの業務サービスを開始した。さまざまなアイテムを管理するノ

ノハウは、膨大な数を扱う出版物流で培われたという。

平成27年には一般貨物輸送から海上コンテナ輸送を行う株式会社エムエスピーを子会社に迎え海外物流をスタートし、海外からの紙製品、食品、衣料品、雑貨等を海上コンテナで輸送して全国に運ぶネットワークを確立する。こうして同社は着実に、そして堅実に事業テリトリーを拡張させていった。

→配車効率を高めて利益を上げる

「どんな仕事も断らない、顧客のニーズに応える」、そのポリシーのもと成長を続けてきた同社。それを支えてきたのが、多彩な設備と考え抜かれた施策である。

月間150万冊の改裝が可能な再生ラインは、大ロットであっても当日または翌日には2万冊強が納品できる高い作業力を持つ。ハードカバー、ソフトカバー、あらゆる判型の本のリメイクを手がけるほか、腰帶かけ、ハガキ・チラシの投げ込み作業等も行い、小ロットにも対応。長年の改裝ノウハウを持つ熟練スタッフを擁し、機械作業と手作業を使い分けるなどニーズに応じた万全の体制を整えている。顧客からはきめ細やかな対応で迅速、丁寧、確実と評判が高い。

さらに他社との競争力になる価格においても、企業努力で効率化を図り物流コストを抑えることに成功している。その一つが出版社以外の顧客を獲得し、効率良い配送ルートを組んでトラックを走らせ積載率を上げる共同配送の取り組みだ。

例えば、自社の輸送物を運ぶ車に同業他社や製本所の依頼を受けた本を合積みして取次に持て行き、そこで取次からの荷物に積み替えて輸送する。また、製紙会社からロール紙を受け取って印刷会社を持って行き、そこで印刷会社の依頼で仕上がった本を取次や他社の倉庫に輸送する。輸送した倉庫で廃棄処分になる本があればそれを古紙会社に運ぶなど。モノの流れの川上から川下まで輸送案件をチェーンのようにつなぐことで、無駄なく車を走らせ利益を積み上げている。

「書店配送も一部行っており、出版・印刷物関連のものを情報収集とデータ分析により、入口から出口まですべて手がけています。こうした努力で価格競争力をつけながら、1案件あたりは薄利でも利益を積み上げられる仕組みをつくりあげたのです」(渡邊一矢専務)

今年の3月には、顧客の了承を得て食品・飲料の共同配送も開始。輸送資源となる人と車を有効に活用し、顧客のニーズと増え続ける物流量に柔軟に対応しながら最適な輸送を実現。同時に交通渋滞の緩和やCO₂削減という社会問題や環境問題にも貢献している。



→働きやすさを提供し人材を確保

現在、物流業界は“荷物はあるがドライバーがない”という悩みを抱える。しかし、同社はそうした悩みを感じたことはないという。ドライバー経験のある渡邊社長が推し進めた、働きやすさに配慮した環境づくりが背景にあるためだ。例えば、頑張りに応じて昇給や賞与等で利益を還元したり、確定拠出年金制度を取り入れて福利厚生を充実させ、運転手のモチベーションが上がるスタイリッシュで使いやすい車も用意している。こうした評判を聞き応募は絶えないのだという。

「ドライバー経験があるので気持ちが分かるんです。みんな本当に車を大事に使ってくれています。ドライバーは会社の顔ですから、身だしなみやあいさつ、マ

ナーにも気をつけるよう指導しています」(渡邊社長) 納品先からも「さすが!出版産業!!」という声を数多く聞くという。頑張りが正しく評価され、荷主や納品先に感謝されドライバーのモチベーションや顧客からの評価も上がる、そしてお気に入りの車で仕事ができる喜びがある——そんな環境がさらなるサービスの向上につながるという好循環が生まれているのだ。

同社には創業から長い間、営業部署がなかったという。ドライバー一人ひとりが会社の“顔”となって顧客や荷受けの担当者と対応し、顧客の悩みや問題に全

「女性社員が7~8割なので、気持ちよく働いてもらえるよう配慮して新社屋を建てました」(渡邊社長)

さらに昨年は三芳町上富に新倉庫「アイミッショングパーク三芳」を竣工。延床面積3,297坪で、関越自動車道三芳スマートインターと所沢インターの両方にアクセスしやすい便利な立地だ。今後、増え続けるネット通販への備えをしつつ、積極的に国際輸送にも力を入れていくため万全の体制を整えている。

→ 中古車事業でさらなる成長を目指す

近年事業承継が進まず、廃業を強いられる企業が多いという出版物流業界。同社はそれを商機に営業を強化して市場を広げる考えだ。また、さらなる飛躍に向け関連会社株式会社スマイルランド「CAR3219(カーミニーク)」を平成28年にグループ企業に迎え入れ、国産車から高級輸入車に至るまで、個性的にドレスアップされた中古車の販売事業を開始、経営を軌道に乗せている。業容を広げ、グループ全体でのシナジー効果を図り增收増益を見込む。

「仕入商売では資本力も大事ですが、同時に顧客満足度(CS)と従業員満足度(ES)を高めていくことで、既存顧客の囲いこみと新規のお客さまを獲得していくつもりです。スマイルランドは、埼玉西武ライオンズさまと西武第二球場のネーミングライツ契約を締結。3月から西武第二球場が“CAR3219フィールド”になりました」(渡邊専務)

11月には上尾市に県内最大級の中古車展示場となるカーミニークのシンボル的なショールームがオープンする予定。将来的にはグループ企業(出版産業、エムエスビー)の使用したトラックの買い取りや販売を扱う青写真も描く。「専務がグループ各社の成長を考えて事業を進めてくれているから、安心して後押しできる」と語る渡邊社長。事業承継の準備も順調だ。

社会インフラとしてニーズが高まる物流に加え中古車販売へと業容を広げる同社、未来に向けて視界は良好だ。



社で取り組んできたためだ。それは渡邊社長が創業時から「顧客の困りごとに応えて、仕事を断らない」ことをモットーにしてきたからもある。現在、そのマインドは全社員に共有され、同社の礎となっている。

→ 新倉庫を開設し需要の増加に対応

同社は平成25年、創業30年の節目に記念事業として本社倉庫を竣工した。倉庫面積4,327坪、所沢インターに近い便利な立地だ。先端の管理技術を設備し、出版物の保管を中心に多様な商品を取り扱う。社屋は社員がくつろげるよう眺望のいい休憩室やホテルのような化粧室等の設備も充実させ、社内託児所も完備。従業員の働きやすい環境づくりに注力したという。